鎌倉の埋蔵文化財14

Buried Cultural Properties in Kamakura 14

平成20年度・21年度発掘調査の概要

平成23年３月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市の地下には、かつて栄えた中世都市が埋蔵文化財として今でも多く残っています。これらの埋蔵文化財は残念ながら、さまざまな土木工事等によってそのままの姿で保存できないことが少なくありません。工事で失われてしまう埋蔵文化財と現在の市民生活との調和をはかるために、現状保存のかなわない遺跡については発掘調査を実施して可能な限り記録化を図り、その様子を私たちが理解できるようにすると同時に、将来へ伝え活用してゆくことは意味のあることです。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、鎌倉駅地下道ギャラリーでも埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を広くご紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財14』では、平成20年度と平成21年度に発掘調査を実施した遺跡のなかから、代表的なものを選んでその概要をお知らせいたします。本誌をご覧になる皆様にも、往時を生きたひとびとの姿が彷彿としてくるのではないでしょうか。これからも、さまざまなかたちで発掘調査の成果をご紹介するよう努めてまいりたいと思います。今後とも、文化財に対するご理解とご協力をお願いいたします。

平成23年３月　鎌倉市教育委員会

～目　次～

１．　松谷寺跡……2
２．　米町遺跡……5
３．　大倉幕府跡……7
４．　弁ヶ谷遺跡……11
　　英文要旨……13

～例　言～

◎本書は平成20年度と平成21年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。
　本書に掲載した遺跡の調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。
　押木弘己・滝沢昌子・馬渕和雄・宮田眞（50音順・敬称略）

《表紙写真》**松谷寺跡（佐助一丁目516番１他地点）Ⅱ期発掘調査区全景**

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫をお願いしました。

1．松谷寺跡（佐助一丁目516番１他地点）

Shokokuji-Temple Site

大規模な造成工事の痕跡

佐助ヶ谷の開口部西側一帯の小さい谷群は松ヶ谷と称されており、御家人・安達泰盛の別荘があったとされています。また、かつて松谷寺というお寺があったと伝えられている場所でもあります。

調査地点は、市役所通りを常盤方面に向って進み、新佐助トンネルに入る手前に位置します。調査範囲は680㎡で、発掘調査によって13世紀後半から近世までの生活面が４面確認されました。13世紀後半から14世紀前半頃の面では、調査区の東西を横断する溝と、南北に延びる土丹[1]を列状にした遺構[2]が見つかりました（写真１）。溝には非常に丁寧な木製護岸が作られており、蓋がされ暗渠（水路）であった可能性もあります（写真２）。また、溝の東側には木製護岸はなく、岩盤を箱状に深くくり抜いて溝としており、梁を渡すための穴が等間隔にあけられています（写真３）。本調査地点の北方にある山裾では、13世紀後半から14世紀前半頃のやぐら[3]も複数見つかっており、寺院との関わりがうかがえます。しかし、14世紀末葉から15世紀中頃の面では調査区の北側と東側で壇状に造成された痕跡が見つかったものの（図１）、それにともなうお堂の跡などは発見されませんでした。

今回の調査では松谷寺の存在を明確に示す発見はありませんでしたが、北方に存在するやぐら群の調査成果や、大規模な造成工事を行っていること、かなり広い範囲で平場であるにも関わらず、人々が住まいを構えて暮らしていたような痕跡がないことなどから考えると、本調査地点を含める松ヶ谷内に寺院があった可能性は高いと言えるでしょう。

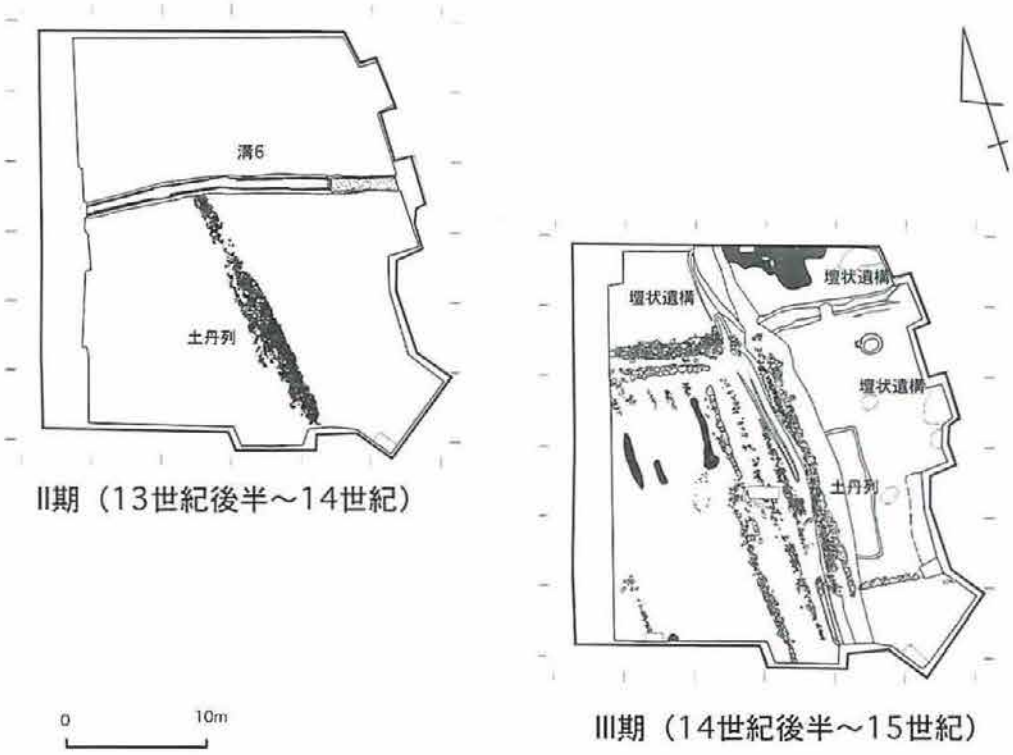


図１　遺跡の変遷（Ⅱ期とⅢ期）

Fig.1 Transition of the remains

写真１　Ⅱ期　発掘調査区全景（東西を横断する溝と南北に延びる土丹列）

Plate.1 Full view of the excavated area

【註】

(1)山裾から切り崩してきた泥岩の塊のことです。

(2)人間がのこした構築物や活動の痕跡のことをいいます。

(3)13世紀末から15世紀後半頃まで、鎌倉を中心とした山稜部に多くつくられた岩窟墓堂のことです。崖に方形の横穴を掘り、石塔や火葬骨などを納めています。僧侶や武士などの墓であったと考えられています。

写真２　溝６　木製護岸

Plate.2 Ditch

写真３　木製護岸と岩盤くり抜き部分(梁を渡すための穴がうたれている)

Plate.3 Ditch

2．米町遺跡（大町二丁目2311番５地点）

Komemachi-Iseki Site

発掘された中世の商業地域

米町遺跡は、現在の大町四ツ角から逗子方向へ約270ｍ東までが範囲です。調査地点は大町四ツ角の南東に位置し、南側には逆川が流れています。

発掘調査によって、13世紀前半から近代までの生活面が４面確認されました。13世紀前半の面（図２）では、薄い側板を杭で支えた木組みの遺構が発見されました。この木組み遺構の南西側では、大きさの揃った約20個のアワビの殻が並ぶ遺構も見つかりました（写真５）。アワビは、採ってきたものを保管していた痕跡なのか、儀礼的な意味で並べたものなのかは不明ですが、米町の性格を考えると、商業行為に繋がる加工･保管のためではないかと考えられます。また、部分的ではありますが木組みの溝も見つかりました（写真４）。ほかにも、かわらけ、下駄や草履芯などの木製品も見つかっています（写真６）。

『吾妻鏡』によると、建長三（1251）年、鎌倉幕府は商業地域である町屋の設置を、大町、小町、米町、亀ヶ谷辻、和賀江、大倉辻、気和飛坂山上の７箇所に限ると発令しています。同様の命令が文永二（1265）年にも再び発せられ、その際にも米町は指定されており、鎌倉時代から室町時代まで、鎌倉が都市として機能している間は商業地域としてたいへん栄えていたと考えられています。この遺跡の周辺では、板壁建物や製作途中の木製品などが発掘調査で発見されており、本調査地点も職人たちの住まいと生業の空間であったと推測できます。

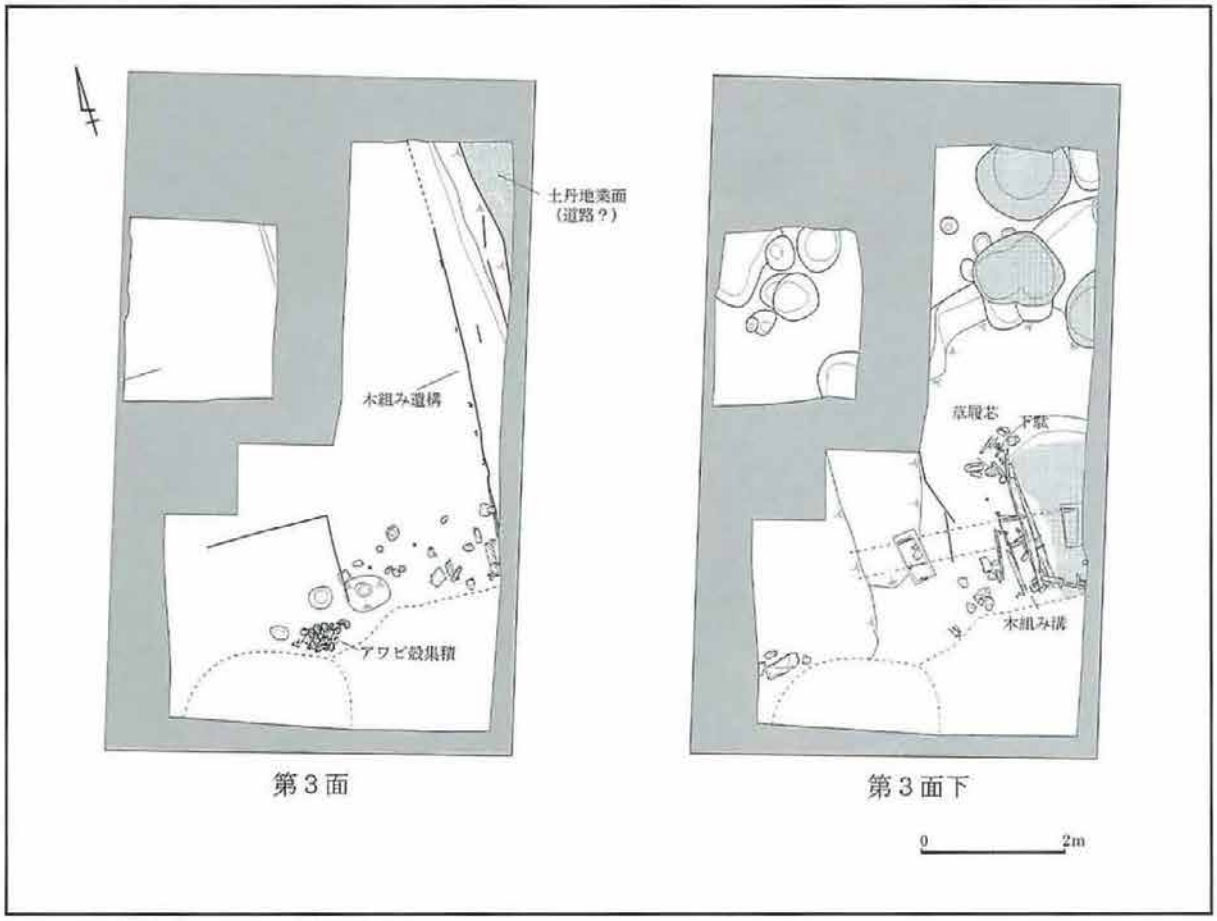


図２　第３面・第３面下　遺構平面図

Fig.2 The remains

写真４　発見された木組み溝
Plate.4 Ditch

写真５　アワビ殻集積遺構
Plate.5 Ear shells

写真６　出土した下駄と草履芯
Plate.6 Japanese wooden clogs and sandals

3．大倉幕府跡（雪ノ下三丁目693番１・８地点、694番18地点）

Okura-bakuhu-Ato Site

幕府移転後も栄える人々の生活

大倉幕府跡は、鶴岡八幡宮と荏柄天神社に挟まれた現在の清泉小学校を中心とした地域です。大倉幕府は、治承四(1180)年12月、源頼朝が大倉に居館を新築したことから始まったとされ、嘉禄元(1225)年、若宮大路の東側に移転するまで存続したとされています。

今回調査した３地点は、横浜国立大学附属小学校と清泉小学校の間に位置しています(図３)。ここでは、平成21年度に発掘調査が行われた、隣接する３地点についてまとめてご紹介します。

(Ａ地点)雪ノ下三丁目693番１地点〈図３－Ａ〉

Ａ地点の発掘調査では、中世の生活面が11面発見されました。土丹を突き固めて生活しやすいように地面を硬く整える工事(土丹地業)が幾度も繰り返されていることがわかりました。14世紀代の生活面では、土丹をていねいに突き固め、周囲より10cmほど高くしている通路状遺構が発見されました(写真７)。この面の下層からは、扇を模した形代[4]が出土しました(写真13)。これは鎌倉市内の発掘調査においても出土例がほとんどなく、とても珍しいものです。

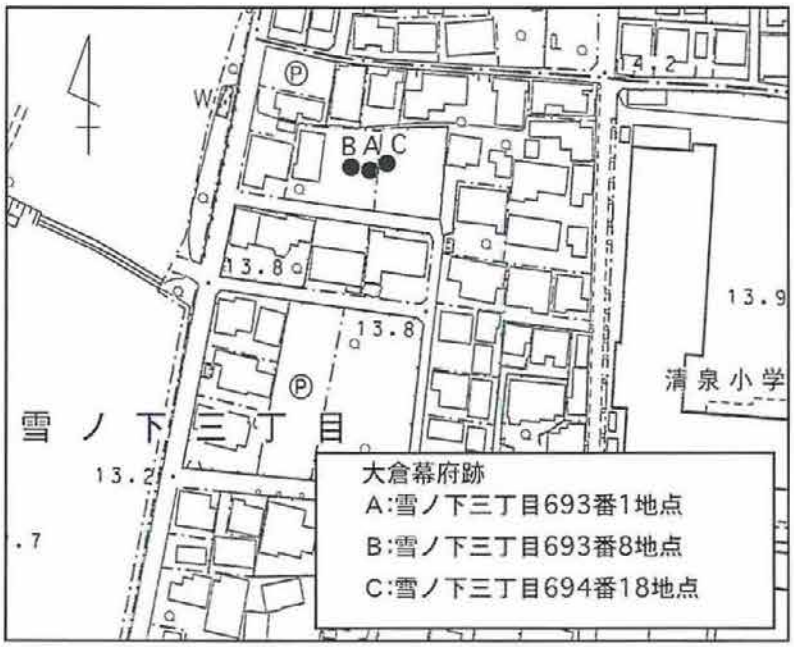
(Ｂ地点)雪ノ下三丁目693番８地点〈図３－Ｂ〉

Ｂ地点では、中世の生活面が10面以上発見されました。14世紀前半頃の面では、囲炉裏跡(写真10)や礎板[5]を据えた柱穴、建具[6]の格子(写真12)などが発見され、建物の一部であったと考えられます。この面の上に炭層があること、囲炉裏跡の板材上部には火を受けた跡があることから、火災で焼失した建物であった可能性があります。この面の下を掘り下げると、側板を杭で支えた簡素な構造の木組み溝(写真11)、漆器椀(写真14)やかわらけ[7](写真15)、まな板などが見つかり、生活空間が広がっていたことがわかります。

(Ｃ地点)雪ノ下三丁目694番18地点〈図３－Ｃ〉

Ａ地点、Ｂ地点と同様に、土丹地業を行なっている中世の生活面が13面発見されました。そのほか、建物の柱穴、かわらけ、陶磁器、漆器なども見つかりました。

３地点ともに、調査面積の狭さから部分的な確認にとどまり、大倉幕府が置かれた時期までの確認には至りませんでしたが、室町時代頃まで、比較的短い期間に土丹によるしっかりとした地盤の造成を繰り返していることが、今回の発掘調査において確認されました。大倉幕府移転後の時代もこの地で生活が営まれ続けていたことがわかります。



【註】

(4)お祓いやまじないなどに使用したものです。鎌倉市内では、木製の人形や舟形、鳥形などさまざまな形代が見つかっています。

(5)P.11註(8)を参照。

(6)室を区切るためなどに取り付ける戸板の一種です。

(7)鎌倉市内の発掘調査で多く出土する素焼きの土器です。神事や宴会などにおいて、一回限りの使い捨ての皿として使用されました。

図３　大倉幕府跡　発掘調査地点

Fig.3 The excavated area

写真７　Ａ地点　Ⅰ区４面全景(柱穴、中央に東西方向の通路)

Plate.7 The view of Point A

写真８　Ｂ地点　第３面
(囲炉裏跡)

Plate.8 The view of Point B

写真９　Ｃ地点　Ⅰ区５面全景
(土丹地業面に石列と柱穴)

Plate.9 The view of Point C

写真10　B地点　第3面　発見された囲炉裏跡(板材上部に焼け焦げたあとが見られる)

Plate.10 Japanese sunken fireplace

写真11　B地点　第4面　発見された木組み溝

Plate.11 Ditch

写真12　B地点　出土した建具の格子
Plate.12 Wooden building stuff

写真13　A地点　出土した扇形
Plate.13 Fan-shaped wooden products

写真14　B地点　出土した漆器
Plate.14 Japan ware

写真15　B地点　第2面　かわらけ溜まり
Plate.15 Kawarakes

4．弁ヶ谷遺跡（材木座六丁目640番２他地点）

Bengayatsu-Iseki Site

礎石建物跡と池跡の発見

弁ヶ谷は、材木座と逗子市小坪との境の山裾にある谷です。調査地点は、開口部近くの中央に位置しています。

発掘調査によって、12世紀初頭から14世紀後半までの生活面が４面発見されました。鎌倉時代（12世紀～13世紀中頃）の面では、溝や木製の樋（配水管）を伴う庭園の池の一角が見つかりました（写真17、18）。また、その池を埋めたてて大規模な掘立柱建物[8]を建て、その後の時代にまた土丹地業[9]を行なって礎石建物[10]を建てている跡が見つかっています（写真16）。礎石建物は東西南北３間以上（約６ｍ以上）で、火を受けた石もあり、建物が火災にあった痕跡だと考えられます。14世紀後半頃の礎石建物跡の近くには、常滑産の甕を、倒れないように地面に少し穴を掘って固定している据え甕も見つかっています（写真19）。

庭園の池や立派な礎石建物、途絶えることなく土地が利用され続けていることなどから、寺院や武家屋敷であった可能性があります。

【註】

(8)柱を直接土中に差し込んでつくった建物のことです。土中の柱の根元が腐らないように柱の下に置く板を礎板といいます。

(9)Ｐ．７を参照。

(10)礎石とは柱の基礎となる石のことで、この礎石を用いた建物を礎石建物といいます。

写真16　Ⅱ面　礎石建物跡　（地面が赤黒く焼けている）

Plate.16 Structure

写真17　発見された池の一角
Plate.17 Garden pond

写真18　発見された木樋
Plate.18 Plumbing fixtures

写真19　常滑の据え甕
Plate.19 Tokoname pot

Buried Cultural Properties in Kamakura 14

1. Shokokuji-Temple Site (Sasuke 1-516-1 and others)

The remains of the large-scale land development

It is said that there were Shokokuji-Temple and a villa of Yasumori Adachi, who was a vassal of the shogun, in this place called Matsugayatsu. Also, a lot of yagura grottoes have been found there.

The excavated point is near Shin-Sasuke tunnel. The remains from 13th century to 17th century was excavated. There was the ditches with wooden wall, possibly covered with lids (Plate. 1). The remains of the lage-scale land development were found.

The remains of the temple weren' t found in this excavation, but these circumstances show that perhaps there was the temple around this area.

2. Komemachi-Iseki Site (Omachi 2-2311-5)

The remains of the business district

The excavated point is located at near Omachi-Yotsukado crossing. Wooden structural vestiges and about twenty ear shells being same size were found. It is thought that the ear shells were used for business. In addition, there were wooden ditches, kawarakes and wooden products (Plate. 4 and Plate. 6).

From Kamakura period to Muromachi period, probably very thriving business area was around here. Therefore this point might have been the living and business district for craftsmen.

3. Okura-Bakuhu-Ato Site (Yukinosita 3-693-1, 3-693-8 and 3-694-18)

The remains of the living district

Okura Bakuhu, means the shogunate at Okura, was begun by Minamotono Yoritomo in 1180. It continued until 1225 when it moved to the east of Wakamiya-Oji.

This chapter reports three excavated points between Yokohama National University elementary school and Seisen elementary school (Fig. 3).

(Point A) Yukinosita 3-693-1 (Fig. 3-A)

In this point, a lot of remains of the life were excavated. The remains show that people had developed the land many times using crushed mudstone. There was the aisle-shaped vestige from the remains of 14th century (Plate. 7). The rare fan-shaped wooden products was excavated under the remains (Plate. 14).

(Point B) Yukinosita 3-693-8 (Fig. 3-B)

It is thought that a structure was on this point in the first half of 14th century because the vestige of the sunken fireplace (Plate. 10) and wooden building stuff (Plate. 12) were found from the remains of 14th century. In addition, the wooden structural vestiges (Plate.11), lacquer wares, some kawarakes, and cutting boards were unearthed under the remains.

(Point C) Yukinosita 3-694-18 (Fig. 3-C)

Same as point B and C, the remains of the 14th century including postholes, kawarakes and Japan ware were excavated.

These three excavations proved that the people were still living there after the Bakuhu had been moved.

4. Bengayatsu-Iseki Site (Zaimokuza 6-640-2 and others)

The remains of the structures and ponds

Bengayatsu is the valley between Zaimokuza and Kotsubo (in Zusi city).
The excavated point is located at the front of the valley. From the remains of 12th century to mid 13th century, a part of the garden pond with ditches and wooden plumbing fixtures was found (Plate. 17 and 18). This remains show that people constructed structures there many times after reclaimed land from the garden pond (Plate. 16 and 19).

A temple or a samurai residence might have been at this point because people had been using the land over and over during the period.

写真20　荒縄　弁ヶ谷遺跡出土(材木座六丁目640番２他地点)
Plate.20 Rope

本書掲載の調査地点

（鎌倉市発行の25,000分１地形図）

《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 松谷寺跡（佐助一丁目516番１他地点）
2. 米町遺跡（大町二丁目2311番５地点）
3. 大倉幕府跡（雪ノ下三丁目693番１地点）
4. 大倉幕府跡（雪ノ下三丁目693番８地点）
5. 大倉幕府跡（雪ノ下三丁目694番18地点）
6. 弁ヶ谷遺跡（材木座六丁目640番２他地点）

鎌倉の埋蔵文化財 14

発　行　日　　平成23年３月31日
編集・発行　　鎌倉市教育委員会
〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
TEL：0467(23)3000　FAX：0467(23)8700
E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印　　刷　　中川印刷株式会社